



東 侯 野 10月号

東侯野小学校 学校だより 平成30年10月1日

小学生服装事情

校長 村田 幹男

年度初めに「学校のやくそく」というプリントを各家庭に配っています。これは学校でみんなが気持ちよく過ごすためのマナーやルールをまとめたものです。学校での生活のしかたの他、登下校のこと、持ち物のことなど、各家庭でも意識していただきたいことが書かれています。

持ち物や服装に関することでは、「アクセサリは身につけません。」「体育のとき、タイツやウオーマーは脱ぎます。」「体操着の上にはフードなしのトレーナーを着ます。」などといった細かなことまで載せています。

「学習に関係ないものは持ってこない」という約束事は昔からあったものですが、これらの内容は昔の約束にはなかったことです。

今や子どもの服装・ファッションは多様です。特に女の子はおしゃれに敏感ですから、休日はアクセサリを身につけてまちに出かけることも多いことでしょう。カチューシャやミサンガをつけ、ポシェットを肩にかけ、うっすらお化粧までして。しかし、学校ではそうはいきません。華美に見える服、露出度が高い服などを着てきたら、配慮が必要です。また、アクセサリやフードも、運動をしたり遊んだりするときには、安全上適しません。

服装といえば、ここ最近、小学校の卒業式で袴を着てくる子が増えています。本校でも去年、急に多くなりました。袴のレンタルが手軽にできるようになり、それがブームになってきているようです。

「着たい。」「着せたい。」と、本人も保護者も思っているケースもあれば、周りの友だちが着るといので「私も着たい。」となるケースもあります。卒業式のような特別の日には、華やかな衣装を身につけて出席したいという気持ちも分かりますが、安易にエスカレートしてしまう傾向はよくないと思います。子どもには安易な思いだけで、袴をせがませたくないと思い、先日、6年生には私から話をしたところです。

今時の小学生服装事情、子どもや家庭によって違うことは承知しています。でも、時には「これでいいの?」と考えてほしいと思うこの頃です。